

えほん『少年とクスノキ』

ひがしのけいご 東野圭吾/作 よしだるみ/絵 じつぎょうのにほんしゃ 実業之日本社



生きるとは？

大切な人を病気や事故などで失って、生きることがつらく、悲しみに暮れる少年。泣いている少年に、声をかけてくれた旅人から、クスノキに会いに行くことを勧められます。そのクスノキは、ただのクスノキではなく、未来を見せてくれる女神の化身なのだというのです。

少年は、クスノキを探す旅に出ました。旅人から授かった棒の指す方向に進めばたどり着くのですが、その道のりはとても厳しいものでした。険しい山や、ジャングルをぬけなければなりません。それでも、少年は、クスノキを目指して歩きます。

ようやくクスノキにたどり着いた少年は、「ぼくの未来を見せてほしいんです。」とお願いをしました。クスノキが見せてくれた少年の未来とは、どんな未来だったのでしょうか？深く考えさせられる答えが待っていますよ。

図書室からのお知らせ

4・5年生へ

今年度最後の貸出日は、修了式のある3月24日（火）です。来年度は始業式のある4月7日（火）から図書室が開いています。春休み前に借りた本は、4月10日（金）までに返しましょう。

6年生へ

今年度最後の貸出日は、3月16日（月）です。男山中学校に進学するみなさんは、八幡小学校の図書室にある本を借りることもできます。なつかしい本を読みたくなったら、中学の先生にたずねてみてくださいね。6年間たくさん図書室を利用してありがとうございました。

八幡市立八幡小学校 図書室

本のおたより

(4年生～6年生用)



令和8年3月11日最終号

最後にもう1冊読んでみて！

もうすぐ今年度が終わりますね。今年度1年間で、たくさんの分野の本を読み、新しい知識を得ることや、心を豊かにすることはできましたか。そして、自分の好きな本を見つけることができたでしょうか。

本のおたよりも今年度最終号です。今年度のうちに読んでみてほしいおすすめの本を紹介するので、最後にもう1冊借りてみませんか。

詩『学校はうたう』

すぎもとみゆき/詩 まつだななこ/絵 あかね書房



学校にあるものたちの心の声が詩になっています

みなさんは、学校にあるものに、たくさんお世話になっていますよね。この本は、そんな学校にある机や、イス、くつ箱、時計などに気持ちがあつたら、どんなことを思っているのかを詩にした本です。

授業の始まりと終わりを告げるチャイムは何を思っているのでしょうか。毎日通学する子ども達を見ている通学路が伝えたいこととは、一体どんなことでしょうか。たくさんの荷物をつめこんでいるランドセルが、子ども達に教えてほしいことは、どんなことでしょうか。

詩を読んでいると、なんだか学校に見守られているように感じると思います。1年の最後に学校にあるものに、思いをはせてみてはいかがでしょう？

物語 『みさき食堂へようこそ』 香坂直/作 北沢平祐/絵 講談社



不思議だけど温かい物語

海につき出した、細長い岬。ぞうの鼻のようなその岬は、さきっぽ岬と呼ばれています。その一番先に「みさき食堂」という軒の食堂がありました。

白いかっぱを着たまんまる顔のおばあさん、ハルさんが食堂の主人です。ハルさんの孫の5才のたまみちゃんは、食堂のお手伝いをしています。

そんな「みさき食堂」は、不思議な食堂です。お客さんは、歩いてやってくるのではなく、風に乗って、ひよいと現れるのです。どうやら、選ばれた人だけが、訪れることのできる食堂のようです。そして、訳があって、食べたくても食べられなくなった料理を、ハルさんがつくってくれて、食べることができます。その料理を食べた人は、温かい気持ちになるようですよ。

道徳 『生きかたルールブック』 齋藤孝/監修 林ユミ/絵 日本図書センター

生きていくために大切な50の言葉

この本は、人生を強くなやかに生きていくためのヒントとなる50個の言葉が、ユニークなイラストとともにしょうかいされている本です。

例えば、「迷いや不安があっても、自分で決める。」や、「自分を成長させるのは、他人ではなく、自分自身。」「自分の強みを見つける。」「満足するところを育てる。」「たくさんの人とつきあいながら、自分らしくいる。」「幸せはみんなで分け合う。いくら分けあっても減らないから。」など、短い言葉ですが、ハッとさせられたり、考えさせられたり、じんと胸にひびいたりする人生で大切にしたい言葉ばかりです。この言葉が、みなさんのなやみを解決するヒントになったり、生きていくための道標になったりするかもしれませんね。みなさんも、50個の言葉のなかから、一番自分にささる言葉を探してみてはいかがでしょう？



えほん 『あさ』 扇野剛/文 羽尻利門/絵 仮説社



先生の言葉にこめられた思いを知っていますか？

朝、登校してくる子ども達に、先生は声をかけてくれますね。

クラスには、いろんな子ども達がいる、朝から元気いっぱいな子もいれば、忘れ物がないか心配する子、その日の授業を楽しみにしている子など、みんなさまざまな気持ちで登校してきます。

先生は、そんな子ども達に、「おはよう。」と声をかけながら、「今日も元気かな？」とか、「ちょっと元気なさそう。」と、感じています。一人ひとりちがうからこそ、子ども達の変化に気付いてあげたいし、その子のステキなところを見つけて、それをいっぱい伝えてあげたいと思っていますのです。

そして、教室がホッとできる場所であってほしい。人生で一度しかない「今日」を思いっきり楽しんでほしい。きっと、八幡小学校の先生達もそう願っていますよ。

物語 『6年3組さらばです』 短編小学校シリーズ 吉野万理子/作 丹地陽子/絵 静山社

6年生それぞれの卒業の物語

6年生として、小学校生活最後の1年を過ごす6年3組15名の児童の物語です。物語に登場する小学校は、海のすぐそばにある小学校で、3月に閉校することが決まっています。なので、6年生は、小学校を卒業するだけでなく、校舎ともお別れです。

そして、6年生が卒業するのは小学校だけではありません。意見を聞かれた時に、自分の意見が言えず、だまってしまう自分にサヨナラする子。いつもと同じ習慣を卒業して、新しい習慣を取り入れることにちょう戦する子。音楽の楽しさを知ったことをきっかけに、いやいやひいていたピアノを卒業し、前向きにピアノを続けることを決めた子。6年生が、それぞれの思いを持って、卒業に向けて動き出します。

八幡小学校の6年生のみなさんは、小学校以外で、卒業したことや、これから卒業することは何かありますか？

